

山形県2026国民春闘共同学習決起集会 参加したくなる労働組合活動をしよう

3月7日 山形ビッグウイング



集会に臨む約100人の参加者



発行責任者
佐藤 完治
山形市薬師町 2-6-15
TEL.023(615)2172
FAX.023(615)2173
HP <http://www.yamagataroren.com/>
E-mail: yamagataroren@yahoo.co.jp

山形県労連は3月7日、県春闘共同委員会・県医労連との共催で、大阪府職労の小松康則委員長を講師に迎え「参加したくなる労働組合活動をしよう」をテーマに山形県2026年国民春闘共同学習決起集会を開催。約百人が参加しました。

安全・安心な学びの場にするためのルールを決め、2人一組の「ヒーローインタビュー」(今年度は大活躍でしたね!)と問われた側が、がんばったことを語る

山形県労連は3月7日、県春闘共同委員会・県医労連との共催で、大阪府職労の小松康則委員長を講師に迎え「参加したくなる労働組合活動をしよう」をテーマに山形県2026年国民春闘共同学習決起集会を開催。約百人が参加しました。

る)でリラックスした後、参加者は、労組活動をしている理由や大切にしている思いを話し合いました。小松さんは、造船にまず必要なのは「海への憧れ」(心)だとするサンIIテグジュペリの言葉を引用。労組活動でも、設計図にあたる戦略(頭)や材料・人手等にあたる戦術(手)に目が行きがちだが、多くの労働者が労組に加わらず職場の問題に何も無い主な理由は、諦めや勇気が出ないことなどであると調査結果も紹介し「心」の問題の重要性を説きました。

講演で小松さんは、委員長としての経験をふまえてコミュニケーション・オーガナイズングを学び考えたことを紹介。組合員が主体性を発揮できるようにするため、まずは役員自身が楽しく元気に、誰でも参加できる運営、当事者の声を出発点にの3点を心がけ、様々なチャレンジをしてきた結果、組合員自身のチームによる企画、組合員のやる気の変化や組合員拡大が進み始めたとして、最大の失敗は失敗に気付かないこと・振り返らないこととで、「みんなで作る」、「チャレンジを応援し合う」、「これが大切だと語りました。ワークショップ後半の2人一組の対話では「チャレンジしたいこと」を出し合いました。アドバイスや自分の経験を語ることで、批判することや一緒に悩むこと、とりあえずほめることはせず、相手の発言の「伝え返し」「言い換え」や、5W1Hなどを意識し「質問」だけで相手自身に考えてもらう方法で「チャレンジを応援する」ことを体感しました。



4人グループでの話し合い



2人一組でヒーローインタビュー

こういふ集会は初めてでしたが、とても良かったです。自分の気持ちや、意見、考え方を相手に伝える事で積極的な気持ちが生まれてきました。(山形地域労連)

参加者の声

ワークショップでのコミュニケーションの取り方や、チャレンジの応援などは今後実践していける内容だと感じました。(山形地区医労組)



2人一組での対話の練習

ワークショップでのコミュニケーションの取り方や、チャレンジの応援などは今後実践していける内容だと感じました。(山形地区医労組)

組合員や地域でも、家族も含めて、悩みや愚痴を要求に転換する為の手法のヒントを得られた気がします。(医療生協労組)

2026春闘回答と統一行動

農協労鶴岡市分会 満額回答5万円！



大手門パルズ前でアピールする県医労連加盟労組の組合員たち

県労連加盟5単組を含む県医労連加盟9単組が3月12日ストライキを決定しました。このうちの一時限りのストを決定した山形医労組は病院前で集会開いた後、県医労連の仲間の二本松労組、篠田労組、小白川至誠堂労組とともに併せて約80

名が大手門パルズ前で旗やプラズターをもってスタンディングしました。その中で県医労連や各単組の代表がお互いに情報交換して励ましました。県労連と山形地域労連もスタンディングに参加して応援しました。

3月11日の一斉回答指定日では県労連加盟の各単組に回答が出されましたが、いずれもスト回避基準など納得できる水準を下回る回答で翌12日の統一行動日では医療・介護の各単組ではストライキが決行されました。

医療・介護の回答状況は

- 医療生協労組 5,120円〔ベア4,608円・定昇512円〕
- 本間病院労組 5,400円〔ベア4,478円・定昇922円〕
- 山形医労組 4,075円〔ベアのみ〕
- かけはし労組 4,000円〔ベアのみ〕
- 酒田健生労組 4,202円〔ベアのみ〕

本年度の医療報酬、介護報酬がまだ決定していない段階で、経営側としても様子見をしており、それらが決定してから6月頃に2次回答する見込みです。これに対して労組側は定昇を先延ばしにするのは不誠実であるとして反論しています。

共立社では、正規定昇プラス4号俸でおよそ5,500円、エリア正規・嘱託は定昇のみで、夏季一時金の回答は正規・エリア正規・嘱託が1,1月、パート0,3月の回答で雇用形態によって格差が開いています。

農協労鶴岡市分会でベア5万円の満額回答！

一方、春闘共闘に参加する農協労鶴岡市分会は、アンケートで明らかになった不足額をふまえ、慎重に協議を重ねて50,000円の引上げを要求。経営側からは「経営状況は引き続き厳しい見通しだが、若い人材が魅力を感じられるようにするとともに、離職防止を図るために給料額表(年齢給)の見直しを検討している」との考え方が示され、「年齢給一律額50,000円引上げ」の満額回答を受けました。

もう一人保育士を山形市長要請

3月16日県労連と山形地域は福祉保育労たんぽぽ分会の仲間とともに国が定めた保育・調理の配置基準を上回る増員配置に対して山形市独自の補助制度を求め要請を行いました。この要請行動は2021年度から毎年続けてきましたが、今回は3月10日に参加予定者らが集まって、どう話せば市長を唸らせることができるかの作戦会議を開きました。現場の担当者からオムツ替えや散歩、食事など具体的な場面で子どもの安全の確保が大変だったり、子どもの思いに十分応えることが出来なかったり、事務をこなすのに休憩時間が取れなかったり残業や家に持ち帰っていることなど話されました。その

上でどのような内容を当日話せばよいか話し合われました。これを踏まえて当日はたんぽぽ分会の4人が発言しました。具体的な新たな回答はありませんでしたが、佐藤孝広市長からは「子どもの発達は権利であり、それを保障する責務が自治体にもある」との言説を引き出しました。要請の後のふりかえりでは「あれも言いかけた、これも言いたかった」という思いもあふれましたが「市長の目をつかり見て訴えることができた」、「たんぽぽ会以外の保育園の職員からも声を集めて市に訴えたい」など積極的な発言もあり、この要請を諦めずに続けていく決意が確認されました。



佐藤市長(中央)に要請書を渡す参加者ら

憲法記念日講演会

「岐路に立つ憲法9条と日本政治」
高千穂大学 教授 五野井郁夫

5月3日(日・祝) 13:30~
山形市「遊学館」2F大会議室
資料代500円

主催 9条改憲NO!山形県民の会